

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 みんなのとおぼ保育園

発効：平成28年3月30日（平成31年3月29日まで有効）

公益社団法人神奈川県社会福祉士会

公益社団法人神奈川県社会福祉士会 評価結果

1 事業所基本事項

フリガナ	ミンナノトッポホイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	みんなのとっぽ保育園
事業所住所 最寄駅	〒252 - 0144 相模原市緑区東橋本 1-19-12 JR 横浜線、JR 相模線、京王相模線 橋本駅下車 徒歩 8 分
事業所電話番号	042-770-1609
事業所 FAX 番号	042-770-1619
事業所代表者名	役職名 園 長 氏 名 腰塚政明
法人名及び 法人代表者名	法 人 名 社会福祉法人 菊清会 法人代表者氏名 理事長 伊藤直樹
URL	toppo-hoikuen.com
e-mail	
問合せ対応時間	8:30 ~17:30

事業所の概要 1

開設年月日	平成 25 年 4 月 1 日
定員数	80 名
都市計画法上の用途地域	
建物構造	鉄筋コンクリート造 2 階建
面積	敷地面積 (771) m ² 延床面積 (552) m ²

事業所の概要 2 (職員の概要)

総職員数	27 名
うち、次の職種に該当する職員数	施設長 (1 名) 保育士 (20 名) 保健師・看護師 (1 名) 栄養士 (2 名) その他 (事務員 1 名、調理員 2 名)

事業所の概要 3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後 8 週目～小学校就学未満	
延長保育の実施	有 ・ 無	備考:
休日保育の実施	有 ・ 無	備考:
一時保育の実施	有 ・ 無	備考:
障害児保育の実施	有 ・ 無	備考:
病後児保育の実施	有 ・ 無	備考:

保育の方針

- ・子どもを尊重する
- ・子どもの発達を保障する
- ・子どもの無限の可能性を信じる
- ・全職員で子ども全員を見守る

福祉サービス第三者評価機関かながわ 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

保育園の概要：

みんなのとおぼ保育園は、JR 横浜線橋本駅北口から徒歩 8 分、住宅地の JR 線路脇にある。八王子市にある「社会福祉法人菊清会 甲ノ原保育園」の姉妹園である橋本りんご保育園の分園として JR 東日本の敷地を用いて発足し、平成 25 年 4 月に独立した保育園として増築し開園した。定員は 80 名で調査実施時点での在籍は 83 名。内訳は 0, 1 歳児 25 名、2 歳児 15 名、3・4・5 歳児の異年齢交流クラス 43 名。保育の方針に「子どもを尊重する」とあり、保育士が主導せず「見守る保育」を中心に据え、異年齢の子ども同士の学びを見守りながら保育をしている。運動会は子どもが楽しむためであることを大切に「フィールドデイ」とし、発表会は子どもたち自身がストーリーを考え「プレイデイ」とし、行事は子どもの成長を保護者にお知らせする場としている。保育室を遊びと生活のゾーンに分けてコーナー保育を行っている。また、主体性を育てるために、発達に合わせたグループでの保育や、子ども自身が選択することを大事にした保育を工夫している。

優れている点・独自に取り組んでいる点：

1. 異年齢児保育

3, 4, 5 歳児は 1 日の生活を異年齢で一緒にすごし、一人ひとりの発達、やりたいことを尊重し、社会生活を育てる保育をしている。3 歳になれば年上がいて、4 歳になると年上と年下がいる、5 歳になると年下が多くなるということが自然と理解でき、お互いに協力し合ったり、教えあったりいろいろな思いを知ることができる環境が作られている。社会の最小単位の家庭の中では兄弟がいない子どもも、地域の子どものも、集団を経験する事の少ない子どもも、異年齢交流の中で互いに学びあっている。

2. 子どもが主体の保育実践

社会福祉法人菊清会コンセプトブックの創始理念に「保育園を通して平和な社会を創造する。そのためには子どもたちが人とのつながりを大切にしながら、毎日を明るく楽しみながら生きていく自立した力をそれぞれで身につけていけるようにする。」とあるように、子どもが自分の意思を持ち、心から楽しめるようにするために、保育士が主導せず見守りながら保育をしている。昼食は何時どこでだれと食べるか自分で選べ、また数種のコーナー遊びについても自分で選べるなど、子どもが選択できる機会を工夫している。

3. チーム保育

異年齢児保育を実践する為に、クラス及びクラス担任保育士を中心とした保育ではなく、クラスリーダーは決まっているもののチームでの保育を実践している。チームで保育を分担する為に、保育士間のコミュニケーションを密にはかり、各々の保育士の良い面が発揮できる事を大切にしている。また、園児一人ひとりを捉えた保育を皆で協力して行っている為、担当するクラスに限らず他年齢の園児についても、報告や相談を受ける体制ができています。チーム保育の充実の為に、「ランチルームの使い方」に焦点を当て「楽しく食べる」との共通のテーマの下に継続した研修を実施しており、各保育士が積極的に意見を出し合い、「教育」という視点を捉えてランチルームのテーブル配置を工夫するなど、チームとしてレベルアップに取り組んでいる。

さらに工夫が期待される点

1. 書類の整備管理

ホームページについては、内容が充実しており工夫されているものの、書類の管理方法については、ファイリングされた書類やパソコン内に保管されている書類があるなど、書類管理にバラつきが見受けられる。文書管理規定に則り、適切な管理が期待される。

評価領域ごとの特記事項		
1	人権への配慮	<p>①子どもや保護者に対する適切な態度や言葉遣いについては、業務マニュアル「コミュニケーション・会話」に定め、職員会議での話し合いや内部研修が行われるとともに、外部の人権研修の報告も行われ、共通認識を持っている。全職員は「理念自己チェックシート」により、実践を自己評価し振り返りもしている。外国籍等配慮を要する保護者については、状況に合わせて写真や絵を用いるなど分かりやすい個別対応を心がけている。</p> <p>②個人情報保護については、業務マニュアル「守秘義務と人権」に定め、さらに「相模原市個人情報保護条例」が制定されていて、職員に周知徹底している。個人情報を含む文書類は事務所の施錠できるロッカーに保管・保護している。職員は日誌等には個人名を記載せず、保護者の相談は個室で行うようにするなど配慮している。</p> <p>③実習生、ボランティア、見学者等については、受け入れのマニュアルがあり、プライバシー保護について周知し、誓約書を作成している。</p>
2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<p>①保護者との連絡・情報交換は業務マニュアル「文書連絡ノート他」に定められ、連絡帳、園だより、クラスだよりの他に、日々、その日の様子や連絡事項をボードに掲示している。栄養士は保護者の希望する献立のレシピを作成し玄関に置き、看護師は降園時、玄関に出て話し合うなど連絡を密にしている。</p> <p>②クラス懇談会と個人面談を行い保護者の意見・要望を把握している。他に保護者が参加できる行事が年4回あり、都度アンケートを実施している。意見・要望は普遍的なものは保護者に公表して共有し、個人的なものは職員会議で報告し、回答するとともに必要に応じて関係機関との連携を図っている。</p> <p>③業務マニュアル「ご意見承りについて」により、意見の受け付けから回答までの流れを定めるとともに、保護者が意見や要望を出しやすいように、日頃より保護者の意向の把握に努めている。</p>
3	サービスマネジメントシステムの確立	<p>①苦情等への対応については、運営法人の「ご意見申出窓口」に受け付けから解決までの手順が明記され、受付担当者、解決責任者、第三者委員名を入園説明会で配布する「入園のしおり」で知らせるとともに、玄関に連絡先も掲示している。受け付けた苦情については、理事会・第三者委員に報告している。</p> <p>②業務マニュアル「冷房・暖房の使用」に基づき室内環境を整えている。温度・湿度は1日4回チェックし記録表に記入し、危険物・薬品は使用日時・使用者を管理表に明記し、看護師が管理している。遊具、玩具、床等の安全点検や消毒は定期的に担当が行い、チェック表に記入している。</p> <p>③予薬は「服薬マニュアル」に基づき、保護者が提出した「くすりれんらくひょう」により、事務所前の「伝達ボード」で確認している。体調不良児・ケガ・感染症についても、朝礼や出勤した職員が必ず見る「伝達ボード」で周知している。感染症については「発症状況報告書」を掲示し、保護者に知らせるとともに、「保健だより」「園だより」でインフルエンザなどの情報を提供している。</p> <p>④防災については、業務マニュアル「防災編」に対応や避難方法まで定められ、毎月、火災・震災・防犯・引き取りなど想定を変えた災害訓練を実施して、振り返りもしている。必要に応じて消防署や自治会と連携している。3日分の飲食料の備蓄がある。</p>

<p>4</p>	<p>地域との交流・連携</p>	<p>①地域の子育て支援については、年間計画を作成し、年間を通して随時の相談を受け付け、育児講座を実施し、平日の 11:30~12:30 の園庭開放を行っている。</p> <p>②相模原市保育所子育て広場事業について、年 4 回以上の交流事業（お楽しみ会・おまつりごっこ・保育ウィーク・もちつき大会等）を職員の係を中心に企画し実施に当たっては、チラシを掲示するだけでなく地域に出向き配布している。</p> <p>③卒園児の入学先として人数の多い地域の橋本小学校と遊びなどの交流をし、3月にはどの入学先とも情報交換をしている。</p>
<p>5</p>	<p>運営上の透明性の確保と継続性</p>	<p>①運営法人独自の「理念自己チェックシート」により、職員は毎週、理念に沿って保育が行われたかチェックし、振り返りをしている。園長は全てに目を通し、助言指導をしている。</p> <p>②チーム保育を実践していて、月案・週案は自己チェックと同様の項目について、チームで目標を設定し理念に沿って実践できたか話し合い振り返りをしている。その結果を職員会議や研修でフィードバックしている。</p> <p>③園のホームページを作成し公開している。地域向け行事の情報は、玄関に置いたり掲示板に貼ったりするだけでなく、地域に出向きチラシを配布している。保護者向けに園だより、クラスだより、保健だより、給食献立表等を発行し、懇談会・個別面談・保育参加・給食試食等の機会を設けている。</p>
<p>6</p>	<p>職員の資質向上促進</p>	<p>①保育の理念や方針は、業務マニュアル・入園のしおり等に明記され、事務所等目立つ所に掲げられている。職員会議で話し合い、一貫して「見守る保育」を展開し、理念に沿って日常の指導計画を作成している。</p> <p>②研修については運営法人の新人研修が 3 回、その後経年研修が年 1 回行われている。園内研修は係が企画し、全職員が参加し不参加者には伝達研修が行われている。外部研修は、勤続年数、専門等を考慮し一人一人の研修計画に沿って主任が計画している。市の主催研修、保育士会等の研修を全員が年 1 回以上は参加すること、初任者・中堅職員・チームリーダーそれぞれが、キャリアパス対応生涯研修を受講しキャリア形成ができるようにしている。外部研修は職員会議で報告したり、報告書を回覧したりして共有している。</p> <p>③実習生について受け入れのマニュアルがあり、担当職員として総括を園長・主任、実習指導をクラス責任者・看護師・栄養士とし、それぞれの役割を明記している。</p>

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目 1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目 1 全体 （調査確認事項全 81 事項） を通してのサービスの達成状況	100 %
---	--------------

大項目 1 の内容 (概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目 2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 設定保育ではなく選択性にし自分の好きな遊びが出来るようにしている 2. 無理強いをしない 3. コーナー遊び・ゾーン遊び 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「選択する保育」を掲げている事を、法人の「保育の方法」10か条で確認した。自分の好きな遊びを見つける様子、それを見守る中で保育を「日案及び保育日誌」で確認した。 2. 泣いて食べられなかった0歳児に対し、保育士が無理強いせずに膝に座らせると落ちつき食べ始めた様子を「保育個人日誌」で確認した。園児がゆっくり食べる様子を見守り、無理強いせずに「食べられたね」と声掛けしている様子を確認した。 3. ままごとコーナーで足りない玩具を年長児が作り、その様子を年少児が真似して製作コーナーで作り、二つのコーナーを繋ぐゾーンを工夫し保育している様子を「日案及び保育日誌」で確認した。
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを育てるためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 異年齢保育 2. ゾーン保育 3. 見守る保育 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「異年齢保育」を掲げている事を、法人の「保育の方法」10か条で確認した。年長児の様子を真似し、年中・年少児がブロック遊びをする様子を、「日案及び保育日誌」で確認した。また、0,1,2歳児が一つのクラスの中で、各々発達に応じて保育している様子を確認した。 2. 新聞紙コーナーで作った物を使い、おままごとコーナーを広く捉えたゾーンで遊ぶ様子を、「日案及び保育日誌」で確認した。 3. 散歩で出かけた公園で、他園の子どもに2歳児が優しい言葉で話しかけ関わりを持つ様子を保育士が見守っている様子を、「日案及び保育日誌」で確認した。
<p>子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることを楽しむことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. J P 子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」への参加 2. 相模原市保育ウィークでの取り組み 3. おじいちゃんおばあちゃんと遊ぶ会での触れ合い 	<ol style="list-style-type: none"> 1. どんぐりの種を植えて育て、育った苗を復興の為に送る「J P 子どもの森づくり運動『東北復興グリーンウェイブ』見送る会」の活動に参加し、役立つ事の喜びを感じている様子を、苗木が送られた報告書「実施園活動レポート」で確認した。 2. 相模原市の保育ウィークに参加し、来園した地域の方と触れ合っている様子を「保育ウィークポスター」他で確認した。 3. 近隣の高齢者が来園し、子どもたちに剣玉や独楽回し、羽根つきなどを教えたり、お話ししながら過ごしている様子を「おじいちゃん・おばあちゃんと遊ぶ会」で確認した。
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事の時間等おかわりなどをする時に献立名を言う量を言う等のやり取り 2. 遊びの中のゲーム 3. 選択をする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年齢差・到達度を捉えて子ども自身が好きな時に食事ができる保育のしくみを「入園説明会」で確認した。昼食場面で、自分で食器を持って何をおかわりしたいか、またどの程度おかわりしたいか、保育士に伝えている様子を確認した。 2. ゲームの中で、言葉の繰り返しや子ども同士がお互いに言葉を真似し合ったりする中で、引越しゲームで保育士の問いかけにはつき

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
		り返事をする様子を、「日案及び保育日誌」で確認した。 3. 幾つかのコーナーの中から子ども達がフリースペースで遊ぶ事を選び、子ども同士で話し合いながら選んだマットを敷いて遊ぶ環境を作っている様子を「月案・週案」で確認した。
生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか	1. 会の時にお休みの過ごし方を聞いたり、散歩から帰った時など行った場所を聞いて過ごす事を楽しめるようにしている 2. ゲーム 3. 当番活動	1. 朝の会で、休み中の出来事の発表を嫌がっていた子どもが、他の園児が発表する姿を見て発表する気になった様子を、「日案及び保育日誌」で確認した。 2. 伝言ゲーム、真似っこするゲームなど言葉を使ったゲームが様々ある中で、散歩に行った公園のベンチの色について、ゲーム感覚で保育士とやりとりする様子を、「日案及び保育日誌」で確認した。 3. 朝の当番活動で、当日の登園児童の人数を職員室に報告し、その後に給食室に報告している様子を、「当番活動(写真)」で確認した。
生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか	1. 異年齢の中で字の読める児が皆の前で本を読んであげたりする 2. プレイデイで表現する場がある 3. 製作	1. 字の読める年長児が先生役になり、年中・年少児に、ゾウ君の散歩やノントンなど繰り返し言葉の多い絵本や、ストーリーを知っている絵本を読む様子を、「月案・週案」で確認した。 2. プレイデイ(発表会)の練習で、子どもとのやり取りで選んだ絵本を題材にした出し物を、リズムに合わせて口ずさむ様子を「日案及び保育日誌」で確認した。 3. 製作は自由に表現する事を大切に保育しているなかで、子どもが自分で貼った紙を見て満足する様子を「日案及び保育日誌」で確認した。
生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか	1. プレイデイ(行事)等で発表する場を設けている 2. 選択する活動を行う 3. 子どもたちと一緒に考えつくり上げていく	1. プレイデイ(発表会)での発表にむけた準備を通じて「自発的に表現する意欲」「みんなで一緒に表現する喜び」「創造的に表現する」事を育てている様子を「2月 もり組」で確認した。 2. 子ども達が各々好きなグループを選び、自分の好きな色の絵の具を選んで皆で布に描き、園の旗を作っている様子を「日案及び保育日誌」で確認した。 3. お誕生会の準備で、年長児が近隣のスーパーに出かけ買って来た材料を用いて、年少児も含めたケーキ当番皆が、工夫しながらケーキにデコレーションをしている様子を「ケーキ作り(写真)」で確認した。各月ケーキ当番が決められている事を「ケーキ作りの当番表」で確認した。

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.運動遊びを通して身体を動かす楽しさを味あう 2.リズム遊び 3.図鑑を置く 	<ol style="list-style-type: none"> 1.運動遊びで、準備体操の後、園庭を1周走る中で、他園児の走りを見て頑張る様子を「日案及び保育日誌」「運動遊び(写真)」で確認した。 2.リズム遊びで、タンバリンやカスタネットなど好きな楽器を選び、クリスマスメドレーに合わせて歌いながら楽器に触れている様子を「日案及び保育日誌」で確認した。 3.飼育しているカブトムシの幼虫を図鑑で調べ興奮している様子を「10月もりぐみだより」で確認した。また、昼休みに、子どもたちがめいめい図鑑を広げて見ている様子を確認した。
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.グリーンウエーブへの参加などを通して日々の散歩などでも自然に、より関心を持てるようにしている 2.畑や食育で食材を見る 3.動植物の飼育 	<ol style="list-style-type: none"> 1.どんぐりの種を植えて育て、育った苗を復興の為に送る「J P子どもの森づくり運動『東北復興グリーンウエーブ』見送る会」の活動に参加し、育てた苗を送る経験を通して社会への関心を持っている様子を「実施園活動レポート」で確認した。 2.餅つきに関心を持って参加できるように、事前に絵本で餅つきや鏡餅、お雑煮の絵本で知る機会を持っている様子を、「日案及び保育日誌」で確認した。餅つきの様子を、「食育活動記録」で確認した。 3.カブトムシへのえさやりなど育てている様子を、「土曜日保育日誌」で確認した。育てたおたまじゃくしを川に返している様子を、「おたまじゃくしをかえす(写真)」で確認した。
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.食材に触れたり給食室がガラス張りの為見て食べたい意欲が生まれるようになる 2.植物を育てる 3.マークを貼って自分から出来るようにする 	<ol style="list-style-type: none"> 1.とうもろこしの皮むきの様子、そのとうもろこしを苦手な子どももおやつで食べた様子を「日案及び保育日誌」で確認した。給食室がガラス張りになっており、栄養士が食事の様子を確認したり、子どもたちが栄養士や調理員に自然に「ごちそうさまでした」とお礼を伝える様子を確認した。 2.畑でナスを育て、ナスが嫌いな子どもが給食で食べる事が出来た様子を「もりぐみだより7月」で確認した。ジャガイモを植えている様子を「じゃがいも植え(写真)」で確認した。 3.園児一人ひとりの荷物棚及びカゴにマークのシールを張り、園児が自分の荷物である事が分かるように工夫している様子を確認した。自分のマークが貼ってある棚から着替えを取り出す様子を「マークを見て自分で着替え(写真)」で確認した。

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.自分の持ち物にマークを付けるなどして服などの出し入れが出来る 2.紙芝居 3.看護師、栄養士からの指導 	<ol style="list-style-type: none"> 1.園児一人ひとりの荷物棚及びカゴにマークのシールを張り、園児が自分の荷物である事が分かるように工夫している様子を確認した。自分のマークが貼ってある棚から着替えを取り出す様子を「マークを見て自分で着替え(写真)」で確認した。 2.紙芝居で歯みがきの仕方を学んでいる様子を写真で確認した。紙芝居の後、自分のコップで練習している様子を「日案及び保育日誌」で確認した。昼食後に子ども達が自分で洗面所に行き、歯みがきをしている様子を確認した。 3.看護師から紙芝居で歯みがきの仕方を教えてもらっている様子を「日案及び保育日誌」で確認した。子ども同士が鏡を見て磨き方を確認している様子を写真で確認した。

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐくむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.見守る保育の実施 2.運動遊び 3.異年齢保育 	<ol style="list-style-type: none"> 1.プレイデイ(発表会)の出し物について、園児が小グループに分かれて話し合うのを保育士が見守る様子、また見守る中で保育士が関わる機会をうかがっている様子を「日案及び保育日誌」で確認した。見守る保育について、法人の「保育の方法〈見守る保育〉」10か条として明文化されている事を確認した。 2.幼児がそれぞれ入りたい2つのグループに分かれ、飛び跳ねるなどの運動遊びをしている様子を「日案及び保育日誌」で確認した。 3.1歳児が、友達同士で教え合う様子や0歳児の鼻水を見た子どもがティッシュを差し出す様子を「うみぐみだより12月号」で確認した。年長児の声掛けで年少時が食べ始める様子、図鑑を見せ合う中で、年長児がページをめくり年少児に説明する様子を確認した。
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.捕食・軽食の提供 2.乳児は0.1歳が合同で保育で発達によりグループ分けし保育をしている 3.巡回訪問を行い要支援の子どもに対応している 	<ol style="list-style-type: none"> 1.おやつは全園児に15時に提供するのに対し、補食は延長保育の対象園児に対し16時45分に、焼きそばやチキンライスなど腹持ちの良いものを提供している事を「こんだてひょう補食」及び「写真」で確認した。 2.0,1歳児が発達によるグループにより園庭遊びやプール遊びをする様子を「うみ会議」「日案及び保育日誌」で確認した。 3.手に力がはいりにくい子どもの養育について、巡回相談で来園した市職員に相談をしている様子を「巡回訪問相談票」「平成27年度保育経過記録」で確認した。市による巡回相

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
		<p>談事業について「障害児等療育支援『巡回訪問』(保育園・幼稚園支援)の実施について」で確認した。</p>
<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.除去食ない時も自分からアレルギーだと言う自覚を持たせる為、給食室に自分で取りに来るようにしている 2.離乳食は個々の発達に置いて個別に対応している 3.アレルギーになる材料自体を使用していない 	<ol style="list-style-type: none"> 1.アレルギー対応食対象児を「27年度アレルギー児一覧表」で確認した。食物アレルギーの内容を「食物アレルギー個別票兼対応確認書」「面談内容記入シート」で確認した。自分からアレルギーである自覚を持たせるように、アレルギー対応食の子どもがピンク色のトレイに準備された給食を、自分で受け取り席につく様子を確認した。 2.離乳食対象児を「ホワイトボード(写真)」で確認した。各々の離乳食ステップの離乳食内容を「離乳食ステップ表」「12がつこんだてひょう」で確認した。離乳食対象児が離乳食を喫食している様子を確認した。 3.アレルゲンであるエビなどの甲殻類を使わないで中華丼を調理している事を「給食予定・実施献立表及び給食日誌」で確認した。
<p>食に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.国産物の使用、手作り、食育活動 2.好きな人と場所も時間を決めて食べられる 3.ランチルームは楽しく食べられるように環境の準備(音楽・ボード) 	<ol style="list-style-type: none"> 1.国産物の使用を、「納品書」で確認した。ちぢみ、お麩ラスクなど手作りする場合のレシピを「法人給食会議資料」で確認した。餅つき、お月見団子づくりを通じた食育活動の様子を「食育活動記録」で確認した。 2.子どもが好きな人と好きな時に食事ができる事等の説明を「入園説明会」で確認した。子ども自身が食べたい時刻にランチルームに来て友だちと食事する様子を確認した。 3.日によってテーブルのレイアウトを変えたり、テーブルの組合せで大きな島から小さな島まで工夫し、一人で食べたい子どもへ配慮、またテーブルにセンタークロスを置くなど、環境を工夫している様子を確認した。
<p>家庭とのコミュニケーションに関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.クラスや給食室のボードにて日々の活動や思いを書いて知らせる 2.保育参加の実施(保育参観との違い) 3.連絡帳の記入 	<ol style="list-style-type: none"> 1.保育参加の給食や補食のサンプル提示に併せ、「お知らせボード『食卓をかこむ』」を準備し、調理する立場から情報を提供している様子を確認した。来園者が自由とれるように「人気メニューのレシピ」を準備している様子を確認した。 2.家族年1回で実施している保育参加の参加希望日を募っている事を、「保育参加のお知らせ」で確認した。保育参加の保護者の感想を、「2歳児連絡ノート」で確認した。 3.連絡帳で家庭とコミュニケーションを図っている様子、「0歳児連絡ノート」「1歳児

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
		連絡ノート」で確認した。連絡帳を記入する上での保育士の注意事項を「連絡帳について」で確認した。連絡帳についての保護者への説明を、「うみだより 4月号」で確認した。
地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください	1.園庭解放 2.行事への参観加 もちつき、おまつりごっこ、おたのしみ会、保育ウィーク等の参加呼び掛け 3.子育て・栄養相談	1. 園庭開放に初めて来園した時に記名してもらい、2回目以降はワッペンを準備しシールを貼るようにしている様子を確認した。 2. 地域の親子にチラシなどで呼びかけ、餅つきやお楽しみ会に参加を呼びかけている様子を、「もちつき予約表」「お楽しみ会『人形劇』」「お楽しみ会受けつけボード」で確認した。 3. 地域の方からの相談を受け、相談内容に応じて、主任及びフリーの職員、また看護師や食事のことなら栄養士などが対応している「子育て・栄養相談」の相談記録を、「子育て相談日誌」で確認した。相談利用の呼びかけをしている事を、「ほいくえんにあそびにきませんか？」で確認した。

3. 利用者への調査

～ 保護者アンケート調査を実施した結果です ～

(1) 調査の状況

調査期間	平成 27 年 10 月 20 日 ～ 平成 27 年 11 月 30 日
調査方法	所定の調査票（アンケート票）により実施した。
調査対象者の匿名化	調査は無記名で行い、調査結果から回答について個人が特定化される場合は、評価機関で匿名化を図った。
アンケート調査票の配布	対象者には事業所を經由して調査票を配布した。
アンケート調査票の回収	記入済みの調査票は対象者から直接、評価機関に郵送された。
回収の状況	調査票配布数 80 通 : 返送通数 40 通 : 回収率 50%

(2) 調査結果の傾向

◆◆アンケート調査全体の傾向

- 園の保育方針、保育内容について、「知っている」100%、「知らない」が0%となっている。
- お子さんの個別の事情（アレルギー・家庭の事情）について、「相談しやすい」55.0%、「やや相談しにくい」「相談しにくい」合わせて17.5%となっている。
- 園との十分な意見交換について、「十分である」67.5%に対し、「やや不十分である」27.5%、「不十分である」5.0%となっている。
- 不審者侵入防止などの防犯対策について、「安心が感じられる」75.5%に対し、「少し心配がある」17.5%、「心配がある」5.0%となっている。
- 事故や災害時の連絡体制について、「安心が感じられる」82.5%に対し、「少し心配がある」12.5%、「心配がある」2.5%となっている。

- 園の良い点の自由記述では、主に「異年齢交流」「給食」「職員の対応」などが挙げられている。「アットホームなところ、異年齢がとても仲が良い」「異年齢の子どもたちとの交流を通じて年上の幼児の自覚が芽生えている」「食育に力を入れているところ」「給食の質が高い」「ごはんも色々なメニューでおいしそう」「園全体で子どもを見てくれていて安心する」「先生方が仕事熱心、おもちゃも手作り品が多く、工夫が見られる」などがあがっていた。

- 改善して欲しい点の自由記述では、主に「保育環境」「駐車場」「けがの対応」などが挙げられている。「上着や荷物置き場を作ってほしい」「ベビーカーの置き場が狭く、屋根も不十分」「駐輪場があると助かる」「時には子どもの年齢同士の保育をしてほしい」「子どもの小さな怪我も大きな怪我もきちんと状況を把握した上で説明をしてほしい」などがあがっていた。

- その他の自由記述では、「子どもはいつも楽しそうに登園している」「園の前の道路は、車がスピードを出すのでとても危ない、スクールゾーン標記やガードレールなどの対策をしてもらいたい」「以前よりは挨拶が徹底されるようになった」「園で子どもを預かって頂いて感謝している」などがあがっている。